

8月30日 年間第22主日 マタイ16章21～27節 復活の希望のうちに人生を歩む

先週の福音ではイエスはペトロを教会のかしらに任命し、天の国の鍵を授けられました。今日はそれに続く箇所、イエスは苦しみを受けて殺され、三日目に復活することを弟子たちに告げられます。マタイの福音では受難と復活を三回予告されますが、今回はその最初です。ルカでも三回予告されますが、ペトロがイエスをいさめる場面はありません。なお、その出来事はマルコにも記されています。

先週信仰告白を行ったペトロは、今度は受難を否定し、いさめたことをイエスから叱責されます。あまりにも正反対の出来事にとまどいますが、これはマタイの福音において、イエスがペトロを教会のかしらに任命された内容をペトロの信仰告白のあとに挿入したからだと考えられています。

それにしてもペトロをサタン呼ばわりとは極端な叱責のように感じられます。ペトロもイエスのことを思って「そんなことがあってはなりません」と持ち前の正直さでいさめただけなのにあんまりではありませんか？

サタンというと黒い体に頭には角、こうもりの羽根に矢印のしっぽの悪魔の姿を思い出します。バイキンや虫歯菌もそんな姿であらわされますね。しかしその意味はイエスが言われているように「神の邪魔をする者」、つまり神から人間を引き離す力のことです。イエスは神の計画を否定し、人間的な考えだけで行動することをいさめられたのです。話はそれますが、アメリカ航空宇宙局が打ち上げたサターンロケットについて「悪魔の計画だ」というとんでもないことをいう人がいます。しかし「サターン」は「土星」のことです。つづりも全然違います。お間違えなきよう。

そしてさらにイエスは弟子たちに対して、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負ってわたしに従いなさい」と言われます。ペトロは恥をかかされたように思うかもしれませんが、むしろ、ペトロが正直に自分の気持ちを伝えたからこそ、イエスはそこから神に従う道を説かれたのだと思います。「間違ふことで正しい答えを学ぶ」と学校の先生によく言われましたが、弟子たちのラビ（先生）もそのように導いていかれたようです。

自分の十字架とはなんでしょうか。自分を捨てるのですから、この世の人生をむなしいものとして顧みず、あの世のことだけを考えて歩むことでしょうか。しかし、この世の人生がむなしいものであるなら、神はわたしたちのこの世のいのちを与えられなかったはずで、それよりも、この世の人生を神からいただいたものとしてしっかりと受け止め、キリストとともに歩んでいくことが必要なのではないのでしょうか。

イエスは受難とともに復活を告げられました。わたしたちも復活の希望のうちに、自分に与えられた人生をしっかりと歩んでいきましょう。
(柳本神父)